

キリスト教保育

年主題

ともにつむぎだす

（希望の中で）

連載

子どもの健康

便秘

中野美和子

論説

ウィズコロナ、アフターコロナ時代の

子育て・子育てに向けて(1)

坂上裕子



Miki Tanaka

6

2023 JUNE.

愛を支配しようと、財宝などを差し出す人があれば、
その人は必ずさげすまれる。

聖書 新共同訳・雅歌8章7

今月の聖句の雅歌は旧約聖書の中にある愛の歌です。

雅歌には「ぶどう酒にもましてあなたの快く」(1:2)、「ぶどう酒にもまさるあなたの愛をたたえます」(1:4)、「ぶどう酒よりもあなたの愛は快い」(4:10)の言葉が出てきます。「ぶどう酒」という言葉は、①人の生命を基本的に支える力②人の心を喜ばせる大事なものを表しています。飲食を表すだけではなく、基本的に物質的なものを意味していると思います。にもかかわらず、「ぶどう酒」よりも「愛は快い」と、愛のすぐれていることを称賛しているわけです。

雅歌のクライマックスが8章6～7節です。特に今月の聖句は、愛の値の付けられないほどの高貴さを、断言していることがわかります。「財宝などを差し出す」ということも、相当の決心ですが、それでも買えないだけではなく、「さげすまれる」ほどのもの、それが「愛」だということです。愛を「財宝」で買おうとする「思い」こそ、さげすまれるという点に注意したいのです。

「飢えを満たそうとして盗みを働いた者を、だれも侮りはすまいが、それでもつかまれば、七倍の償いをし」(箴言6:30～31)とあるように、「盗み」に比べても、「愛を買おうとする」ことが、厳しい非難のもとにおかれていることが、よく理解できるでしょう。

幼児期における教育は「環境を通して行う教育」です。子どもたちと保育者が、かもしだす雰囲気一特に隠されていて事象としてあらわれないもの一時間・空間にまで、私たちの気配りが大事なのだと思うのです。設備、教材だけではなく、保育者の思いや言葉も含めて考えなくてはならないでしょう。

少なくとも、子どもたちの心をつかもうとして、「財宝などを差し出す」ような保育だけは、ただ「さげすまれる」だけであるということを忘れてたくはないと思うのです。

(宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長)

1989年「キリスト教保育」誌6月号より

キリスト教保育

第651号6月号



年主題

ともにつむぎだす

～希望の中で～

幼子とともにキリストへ 2

目次 3

〈巻頭言〉子ども一人一人の個性を生かす

保育を 森 懋 4

〈論説〉ウイズコロナ、アフターコロナ時代の

子育ち・子育てに向けて(1) 坂上裕子 6

〈小論〉外国につながる子どもの

保育について 咲間まり子 14

図書紹介 高井由紀子 浅野聖子 21

聖書に聞く・お話 山本香織 22

【カリキュラム】

6月 月のねがい表

心にとめて 富田恵美子

実践報告 サムエル未来こどもの園

実践からの学び 湯元睦美

絵本のとびら 宮崎祐

心にとめて 大漣知子

実践報告 深川めぐみ幼稚園

実践からの学び 井出孝太郎

〈連載〉子どもの健康 中野美和子

子どもと賛美するために 45

〈連載〉キリスト教の行事 小羊幼稚園

目福口福耳福 太田陽子 46

礼拝のお話 佐渡いずみ 49

風 吉岡康子 編集子 赤木敏之 50

連盟だより 60

表紙絵
カット

田中慎子 金井ユリ
中畝治子
松成真理子 こだいみのり

41 36 34 33 32 28 26 25

